2019年11月17日
東京山宣会

フィールドワーク
山宣最後の１日・終焉の地をめぐる

今年は山本宣治（1889年５月～1929年３月５日）の生誕130年、死後90年の記念すべき年です。その年、終焉の地神田神保町に千代田区の「まちの記憶記念プレート」として「山本宣治終焉の地」のプレートが建ちました。

39年９ヶ月余の短い山宣の生涯の最後の１日の足跡を辿り、山宣に思いを寄せることとします。

1．コース

千代田区労協（事前学習）→西神田小学校（跡地、現在児童館）→正則英語学校（現在の正則学園高校）→光榮館跡地→懇談

2．資料

①山宣が生まれ、カナダで鍛えられ、研究者となりながらも常に大衆運動に身を置き、国会議員として当選してから亡くなるまでの足跡（永島作成）

・山宣の思想はカナダで鍛えられた

・国会議員として当選後の最初の仕事は「3.15事件」で弾圧された人たちの人権を守り、警察・特高をはじめとした国家権力の責任を問うことにあった。

・夜行につぐ夜行での移動→やっと辿り着いた定宿「光榮館」で虐殺されることに。

②中村高一「昭和４年３月５日の夜」

・当日山宣が西神田小学校での応援演説に駆けつけた中村高一の回想（田村敬男『山本宣治・白色テロルは生きている』）より

③『戦旗』1929年４月号山宣特集より

・江口渙「山本宣治暗殺真相記」（「戦旗」1929年４月号より）

④『無産者新聞』の記事

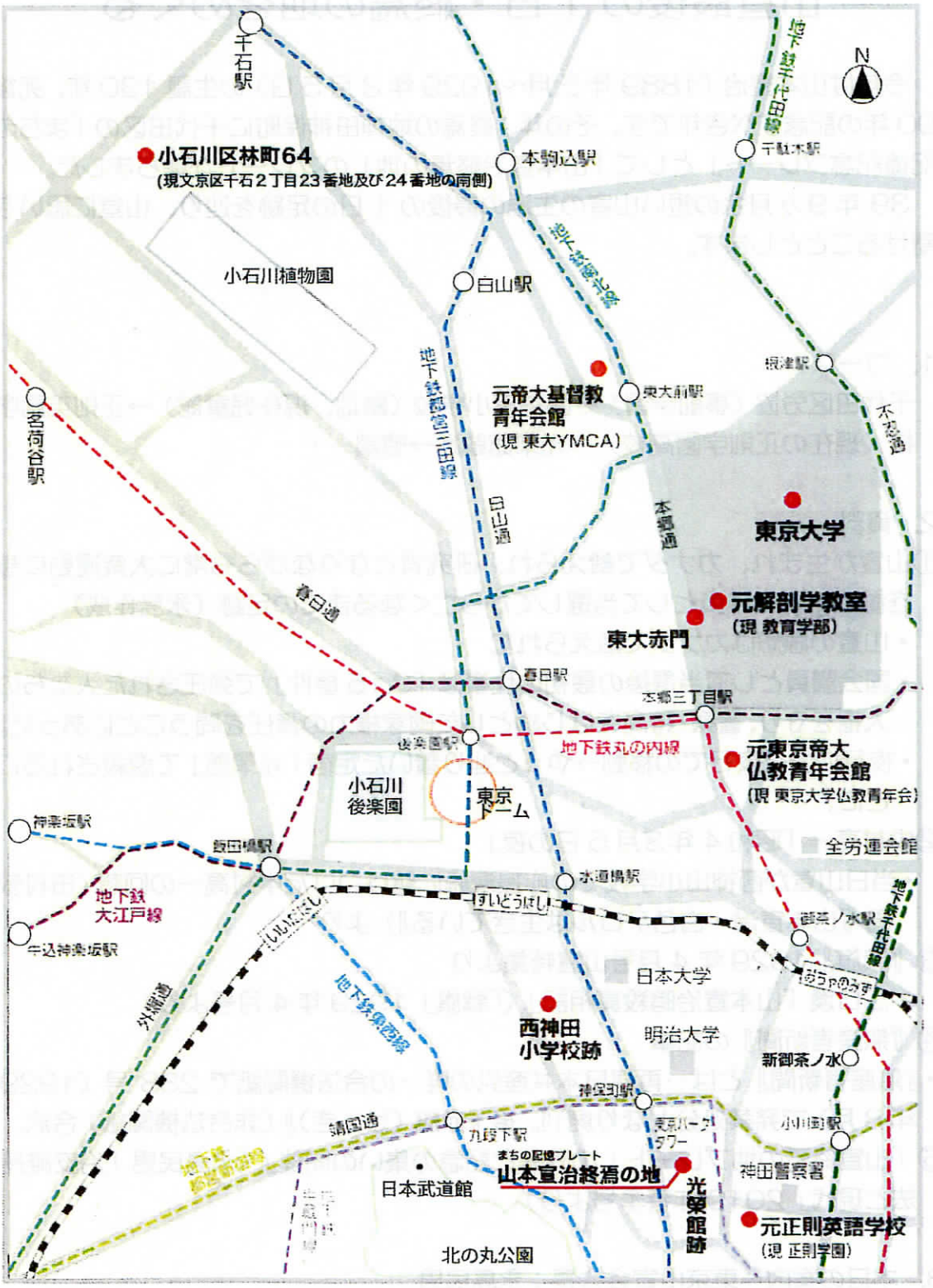
・『無産者新聞』とは…再建日本共産党の唯一の合法機関紙で238号（1929年８月）で発禁処分となり廃刊。後『赤旗（せっき）』（非合法機関紙）合流。

⑤「山宣終焉の地プレート」の除幕と記念の集いの開催」（永島民男「治安維持法と現代」2019年春季号より）

3．本日の案内…東京山宣会会長：永島民男

山宣フィールドワーク in 東京　ルート図

・東大生時代の山宣の居宅（元小石川区林町 64、現文京区千石 2 丁目 23 番地及び 24 番地の南側）
・元東京帝大基督教青年会館（現東大 YMCA）・元東大仏教青年会館（現東京大学仏教青年会）
・元正則英語学校（現正則学園高校）、光榮館跡、山本宣治終焉の地プレート、西神田小学校跡、東大赤門
・元東大解剖学教室（現教育学部）など



山宣　生誕→カナダ就労→研究者→労農運動→代議士そして死までの 40 年

《幼年時代…1889 年～1906 年 17 歳》　大日本帝国憲法公布の年に生を受けた山宣

・1889 年 5 月 28 日京都市内新京極で「ワンプライスショップ」（アクセサリー店）を営む山本亀松、多年（たね）のひとり息子として誕生。両親は熱心なクリスチャンで宣教師の漢字から宣治と名付けらる。
【2 月 11 日大日本帝国憲法公布】

・1899 年 3 月宇治市菟道小学校卒業、京都市第 2 中学校入学

・1901 年 4 月神戸一中（現神戸高校）入学→11 月退学（竹久夢二 1899 年 4 月～12 月在学）

・1904 年 4 月～7 月興農園（東京）で園芸見習・花やしき（旅館）開業　【日露戦争】

・1906 年 1 月～9 月大隈重信邸で園芸見習・正則英語学校通学　【東京市電運賃値上反対闘争】

《カナダ時代…1907 年 18 歳～1911 年 22 歳　山宣の思想形成期》

・1906 年 4 月～1909 年カナダバンクーバーに渡航し様々な労働に従事、社会主義思想に接す

・1910 年 8 月～1911 年 12 月ブリタニアハイスクール（加奈陀新報に寄稿）、首席で 2 年進級、日本の思想弾圧を批判　【大逆事件、幸徳秋水ら 12 人の死刑執行】【特高警察設置】

《学問・結婚・生物学者へ…1912 年 23 歳～1923 年 34 歳》

・1912 年 4 月同志社普通学校 4 年に編入学　【大正改元】

・1914 年 3 月同志社普通学校卒業、6 月 25 日丸上千代と結婚、9 月第三高等学校入学
11 月 3 日長男英治誕生　【第一次世界大戦】

・1915 年 7 月 18 日～9 月 6 日南洋修学旅行　【対支 21 ヵ条要求】

・1916 年 11 月 5 日次男浩治誕生　【吉野作造「憲政の本義を説いて其有終の美を済すの途を論ず」】

・1917 年 7 月第三高等学校卒業、9 月東京帝国大学動物学科入学、妻子 4 人で上京し本郷区林町 64 番地に居住　【ロシア革命】→【3・1 独立運動】【五四運動】【米騒動】

・1919 年 4 月 1 日三男繁治誕生　【コミンテルン創立大会（3 月）】

・1920 年 7 月東京帝大卒業、9 月同志社予科講師、京大大学院（医学部）入学、12 月腸チフス→身重の千代の看病「人生生物学」出版　【日本で最初のメーデー】

・1921 年 4 月 5 日長女治子誕生「治ちゃんはパパの身代わりだ」
11 月京大医学部講師となり大津臨海実験場勤務、性教育啓蒙活動展開

・1922 年 3 月 30 日サンガー女史（全米産児制限協会会長）京都講演で通訳→「山峨女史家族制限法批判」
4 月京大理学部講師
10 月 30 日次女美代誕生
12 月 10 日来日中のアインシュタインを京都みやこホテルに訪ねニコライ「戦争進化の生物学的批判」推薦文を依頼・快諾、出版　【全国水平社創立】【日本共産党創立】

《労働運動、農民運動、教壇追放、代議士へ…》

・1924 年信南自由大学講師、大阪労働学校講師、京都労働学校校長、京大・東大・早大の社研講師、水平社、日農講師、「恋愛革命」（持っているだけで検束）【学生社研連合結成】【婦人参政権期成同盟】

・1925 年「産児制限評論」出版、全国労働学校協議会議長　【男子普通選挙法成立】【治安維持法公布】

・1925年11月第1次朝鮮共産党事件（治安維持法による最初の逮捕者）

・1926年1月京都学連事件（治安維持法国内初適用事件）で自宅が家宅捜索、同志社講師解雇、労農党京滋支部結成教育出版部長、南山城小作争議指導、議会解散請願運動全国実行委員長

【労働農民党結成・大山郁夫委員長、細迫兼光書記長】

【7月中国国民政府軍による北伐開始→12月国共連立の武漢政府の樹立→1月イギリス租界占領、イギリスからの出兵要請→2月労農党がプロレタリア国際連帯の声明で敬意声明】

・1927年2月衆議院京都2区補選に立候補795票で落選、父亀松死去、

5月31日社会民衆党、日本労農党、労働農民党の3党による「対支非干渉同盟」結成。

8月24日対支非干渉同盟で「支那視察団」団長に推挙されるも宇治署に検束拘留、労農党京都府連委員長になる

【4月20日田中義一内閣成立～1929年7月2日、6月27日東方会議で中国統一の妨害、日本の権益擁護、生命線としての満蒙の中国侵略政策を決定】　【共産党27年テーゼ】

・1928年2月20日第1回普通選挙で京都2区から当選（14411票）

・1928年3月15日「3・15弾圧事件」弾圧事件の犠牲者救済活動、東北･北海道遊説し多喜二と会う。多喜二「北海道は半植民地だ」、政治的自由獲得労農同盟結成

【労農党･日本労働組合評議会・無産青年同盟に解散命令】

【緊急勅令による治安維持法改悪（最高刑死刑・目的遂行罪付与】

・1929年2月8日衆院予算委員会で3・15事件での「不法検束・不法拘留・拷問」について徹底追及。

この頃、治安維持法改正案の上程を前に「戦争撲滅」と墨書し書斎に掲げる。

2月22日光榮館にて安田徳太郎と出版、講演（上小農民組合連合）のことで相談。

2月25日羽田の日本相愛会（漁師組合）で演説会、横書き「唯戦唯生」揮筆。

2月27日新潟県中蒲原郡農民組合の招きで五泉駅に→官憲に検束されるも民衆の手で奪還→駅前の「かじや旅館」で幹部と懇談し石田宥全の求めに応じて縦書きの「唯戦唯生」揮筆

2月28日別所温泉で高倉テルと合流し柏屋別荘旅館に宿泊。

3月1日上小農民組合大会で「無産党代議士の議会観」の2時間講義→弁士中止→夜行で上京。

3月2日衆院本会議出席。「治安維持法改正緊急勅令事後承認案」上程採択なし→夜行で京都へ。

3月3日花やしきで娘たちと雛祭り。夜福知山で演説会。夜行で大阪へ。

3月4日大阪天王寺公会堂での全国農民組合大会で挨拶。「議会に送り出された無産党議員8人の中で、実に今や階級的立場を守るものは唯一人だ。だが僕は淋しくない。山宣一人孤塁を守る。併し背後には多数の…（弁士中止）」の演説→夜行で上京。

《死と告別・顕彰…1929年3月5日とその後の顕彰…》

・1929年3月5日早朝東京着→光榮館へ投宿→その朝、谷川巌と会い学士会館前電停まで歩く→午後第56回帝国議会出席。衆議院で「治安維持法改正緊急勅令事後承認案」への反対演説を封じられる。野呂榮太郎と会う。夜西神田小学校での東京市議中村高一応援演説に立つも弁士中止で降壇→光榮館へ帰る→光榮館で七生義団黒田保久二に刺殺される。

3月6日京都から山中平治、安田徳太郎、奥村甚之助が駆けつけ多年の「遺体は労農党の赤旗で包む」「火葬にして遺骨を持ち帰る」「デスマスクをとること」を伝える。大月源二、橋浦泰雄によるデススケッチ、鈴木賢二等3人によるデスマスク。光榮館で仮通夜。

3月7日東大法医学教室で司法解剖（飯塚判事臨席で東大法医学佐藤博士の執刀）。脳髄1716

グラム（桂太郎 1610.グラム、夏目漱石 1425 グラムを凌ぐ）。遺体は母多年の命で労農党の赤旗で包み入棺し棺は黒布で覆う。東大キリスト教青年会館（現東大 YMCA）で通夜。

3 月 8 日棺は本郷通りを通って東大仏教青年会館（現東大仏教青年会）へ、そこで告別式。葬送行列の様子は母多年の依頼でプノキオ（プロレタリア映画同盟）の決死の隠し撮りで撮影決行。大月源二「告別」（油絵 100 号）、矢部友衛「労働葬」（油絵 300 号）に。告別式では河上肇の弔辞は途中中止に。その後荒川区三河島の博善社で火葬。遺骨は夜行で京都に移送。

3 月 9 日遺骨が山中平治、奥村甚之助の手で宇治へ。9 日～14 日まで花やしきで通夜。

3 月 15 日「3･15 事件」1 周年に「山宣・渡政労農葬」が青山斎場等全国で開催。検挙者多数。同日京都三条青年会館で山宣労農葬、官憲弾圧の中参加者はタクシー組合が京都駅から三条青年会館まで無料送迎、遺族参加、官憲の弾圧で混乱。逮捕者多数。プノキオ（プロレタリア映画同盟）の決死の撮影→映画化

4 月「戦旗」4 月号で山本宣治追悼号

9 月 18 日山本宣治全集第 1 巻「戦争の生物学」（ロゴス書院）発行。序文はアインシュタイン。以降、1930 年 12 月第 8 巻まで全集発行。編集は高倉輝・安田徳太郎（各 1 円 50 銭～2 円）善法墓地に「花屋敷山本家之墓」（揮筆：阪正臣）、後背部に大山郁夫揮毫の「山宣ひとり孤塁を守る…」→戦前はこの文字がコンクリートで埋められ、墓石も横倒しにされる

・1930 年 5 月 1 日別所温泉高倉テル宅前に「山宣記念碑」建立。碑に山宣の座右の銘「人生は短く科学は長し」のラテン語が刻まれる。その後 1933 年碑の取り壊し命令が出され、柏屋別荘の斎藤房雄さんが取り壊し顛末書を提出し柏屋別荘の庭石で戦後まで保管。

5 月 18 日小林多喜二、江口渙、中野重治、貴司山治等が宇治花屋敷に妻千代、母多年を弔問。その後山宣墓に墓参。

・1931 年荻野久作「オギノ式避妊法」発表。32 年太田リング発明。34 年ラテックス製コンドーム発売。

【1932 年 5 月 15 日「5･15 事件」】

・1933 年 2 月 20 日小林多喜二拷問死（29 歳）

・1936 年避妊リングが有害器具に。　【1936 年 2 月 26 日「2･26 事件」】

・1937 年母子保護法制定、産児制限運動弾圧

・1959 年　西口克己『山宣』（中央公論社、のち青木文庫）

・1960 年 11 月 8 日『武器なき闘い』（山本薩夫監督・大映）公開→郭沫若から山本多年へ七言絶句の詩

・1964 年　山宣の蔵書、書簡、プノキノ「山宣渡政労農葬」など大量の資料が花やしきから発見される

「山本宣治…白色テロルは生きている…」（田村敬男著）

・1971 年 10 月 8 日上田安楽寺入り口参道に「山宣記念碑」再建。碑を守るために長野山宣会結成。毎年 10 月に碑前祭を実施。その後高倉テルの「人間を信じる心」の碑、斎藤房雄記念碑も並立。

・1979 年 1 月「山本宣治写真集」（佐々木敏二編集・汐文社）

10 月山本宣治全集（全 7 巻・汐文社、佐々木敏二・小田切明徳編集）　生誕 90 年没後 50 年記念事業

・1980 年 3 月『嵐の中の赤いバラ』（永井智雄演出）全国公演開始

・1989 年 7 月「性はおおらかに」（小田切明徳著・かもがわ出版）

10 月宇治山宣会主催カナダバンクーバーツアー（遺族を含めた参加者 30 人）、

漫画『山本宣治』（吉田英一著・機関紙共同出版）　生誕 100 年没後 60 年記念事業

・1994 年「性のタブーに挑んだ男たち…山本宣治･キンゼイ･高橋鉄」（山本直英・かもがわブックレット）

・1998 年 10 月「山本宣治　上・下」（佐々木敏二著・不二出版）　生誕 110 年没後 70 年記念事業

・1999 年「山本宣治の性教育論」（山本直英著・明石書店）

・2002 年「山本宣治写真集」（佐々木敏二・小田切明徳編集・不二出版）

・2009年3月「山本宣治…人が輝くとき」（本庄豊著）
4月「テロルノ時代…山宣暗殺者黒田保久二と黒幕某」（本庄豊著・群青社）（黒幕大久保留次郎）
5月「民衆とともに歩んだ山本宣治」（宇治山宣会・かもがわ出版）
「山宣譚（ものがたり）」（小田切明徳著・つむぎ出版）
DVD「やません山本宣治の生涯」発行（生誕110年没後70年）
9月ケイ・シュガー（佐藤圭子・大阪）作詞作曲「山宣　山本宣治の生涯」発表
・2010年11月「続山宣譚（ものがたり）」（小田切明徳著・つむぎ出版）
・2012年3月『山本宣治と母多年』（大林道子著・ドメス出版）
・2016年3月5日ブックレット『我らの山宣と東京』（東京山宣会）発行（現在まで2500冊普及）
・2019年3月17日東京山宣会として終焉の地（千代田区神田神保町定宿光榮館跡地）に千代田区街の記憶として「山本宣治終焉の地」プレート申請し完成。除幕・集い・交流会に200名が参加
5月ハングル版「民衆とともに歩んだ山本宣治」（黄慈恵）出版

2019.11.17　永島作成

付録

山宣暗殺の黒幕は誰か…黒田保久二の後ろのそのまた後ろにいた人物とは…

・門司港で荷役の請負をしている大親分木村清が総裁で「木村組」が大本。門司警察署長桜井敏雄に可愛がられた木村は労働組合運動対策のために門司港で働く沖仲仕を統一する労働共済会を組織し、京城（ソウル）にも朝鮮支部を置く。この労働共済会が七生義団になる。七生義団とは楠木正成の「七生報国」からとり、「われら国家社会の秩破壊者に対して挑戦す」を謳う右翼団体。
・関東大震災後木村は桜井署長の肝いりで全九州から集めた慰問袋を持って上京。このとき同行したのが義弟の小島安次郎（後の七生義団副総裁）や黒田。黒田等は復興後も東京に残り、木村組東京出張所を開設。
・黒田自身も以前巡査をしたことがあり、警視庁有松特捜課長とは旧知の仲だった。有松の上司は警視庁官房主事の大久保留次郎（後の東京市長）である。
・桜井署長は後に東京に配転になり、大久保に目を掛けられる。
・木村総裁は1929年1月に上京し、黒田が山宣に突きつけた「斬奸状」の筆跡も木村だと言われている。
・大久保→有松→木村→黒田の線は繋がったが、大久保の上にさらに内務省警保局長横山助成がいたのではないかと（宇治山宣会・本庄豊氏は「テロルの時代」（群青社）では述べている。そうなると山宣の暗殺は右翼による白色テロではなく、国家権力による殺人ということになる。

山宣に差し出した「斬奸状」の内容

1. 直ちに代議士を辞退すること
2. 選挙区民をあざむきて思想を悪化せしめたる罪
3. 治安維持法案に反対し、赤化運動を容易ならしめたる罪
4. 開院当日、不敬事件※を惹起したる罪
5. 以上の理由によって、代議士を辞退し、赤化運動を断然止める事

※「不敬事件」…開院式に礼服を着用しないで陛下を奉迎したというもの。山宣に限らず８人の無産党議員のほとんどが同じように礼服を着用しなかった。